

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				年	月	日
児童発達支援・放課後等デイサービス ポップ								
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		学習をする際にパーテーションを置いて集中の妨げにならないようにしています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		児童さんの個々の状況に応じてパーテーションで区切ったりして落ち着ける場所を確保していく		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		勤務開始と勤務終了のミーティングの際に1日の児童さんの変わった様子等を共有している。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員間で情報共有を行い、常に意見し合える場を設けている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		その都度、職員間で話し合う機会を設けて職員全体が改善すべき点を把握した上で業務改善に繋げています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に2回程度勉強会をする機会を設けています。			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童さんの発達に応じて常に情報提供を職員同士で行い、話し合った内容に沿って支援内容を考えています。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書を職員全体で把握し、計画に沿った内容にズレがないか確認し計画に沿った支援を行うようにしています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童さんの様子やその日の状況に合わせて職員で計画書や1人1人の児童さんの発達にあったプログラムを考えています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日々児童さんの状況に合わせたプログラムを取り入れるようにしています。			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			できるだけ早くに支援内容を職員間で共有していき、児童さんが待つことのないようにスムーズに支援が開始できるようにしていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容は、連絡帳を通して保護者に伝えています。	気になる点があった際は、記録に残していき、共有した上で今後につながる改善策を考えていきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		個々の児童さんに応じて、無理なく複数の基本活動を行えるよう努めています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自分のしたいことをツールを用いて選択できるよう工夫しています。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○		一部連携できているが、他の連携機関との連携は今後検討していきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		事前に学校に情報事項を確認し、送迎時刻のミスにつながらないように適切に対応を行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		気になる点がある児童さんに関しては利用していた保育所や幼稚園に情報を聞き出せる機会を設けられるように常日頃から連携が取れるよう今後検討していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		勉強会等を通して研修を受ける機会を多く設けていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後、事業所にくる児童さんの数によって交流する機会を作れるよう検討していきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		常に保護者と連携を取りながら状況に合わせて課題に取り組めるように努めています。	
保	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にわかりやすく重要事項説明書や利用契約書に沿って説明を行うようにしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書の作成が終わったら保護者の方に確認を行い、サインをもらう際に、もう1度支援内容の説明を行った上で同意をえるように心がけています。	
保	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		その時に起こった出来事を職員間で話し合い、その日のうちにに対応するよう努めています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○		こまめに活動内容等をアップしていき、周知してもらえよう検討していきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		1日の児童さんの様子をその都度口頭で細かく伝えるようにしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		検討しています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			発生を想定した訓練を年に1回は行うように実施した際に職員全体や家族に訓練内容を周知していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難訓練を実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者から聞いた情報を職員間ですぐに共有するようにしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		アレルギーを持つ児童さんがいたら対応するようにしていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全確保についての内容を家族等にわかりやすく説明を行い、周知できています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ミーティング等で、職員間で共有し改善案を提示して、再発防止に努めています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		職員1人1人が虐待防止の研修を通して児童さんへの声かけや接し方に気を付けながら適切な対応を心がけています。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポップ		
○保護者評価実施期間	2025年3月 ～ 2025年4月末日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年4月1日 ～ 2025年5月30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年6月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援では、それぞれの児童に合わせた完全個別療育を実施し、成長段階に合わせた関りが実施できる。 ・放課後等デイサービスでは、小集団の強みを生かした支援を行い、個々の課題に対して手厚く関わり介入できる配慮をおこなっている。	療法士等の意見を取り入れた療育を実践するため、理学療法士や経験豊富な児童指導員の指導や視点を取り入れたプログラム立案、実践を行うようにしている。 常勤の言語聴覚士は在籍していないが、保護者さんからの希望があれば言語聴覚士による相談できるような体制を取り入れたりしている。	根拠に基づいた療育を実践できるように、信頼性の高い研修会等へのスタッフ全体の参加をもっと進めていく。 常にお子さんやご家族さんの困りごとに寄り添い、解決できるように事業所内での事例検討や情報共有をさらに深めていく。
2	療法士が関わっていることで、正確な評価の上で療育を実践できている。 個々の児童さんの個別支援計画書や発達検査の評価をもとに適切な支援を行うことができている。	療法士の視点を、事業所内研修を行ったりして、保育士や児童指導員が実践できるようにしている。	現在は、理学療法士や言語聴覚士、児童指導員や保育士に相談できる体制はできつつあるが、作業療法士や心理士等に評価してもらったり相談できる体制が整っていない。そのあたりを充実できるように横断的なつながりや取り組みを進めていく。
3	経験豊富な職員がいることで、様々な問題や困りごとに対する対処法や経験則を提供できる。	スタッフが今までの経験や困りごとに対応法を共有できるように持ち合わせている経験を自分のみで消化せず、情報を出し合い共有できるように努めている。	研修会への参加促進や事例検討会の充実、自立支援協議会へ参加することにより、問題点や困りごとに対処するための方法や知識の収集に取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援と放課後等デイサービス（以下、放デイ）を時間を分けて行っている関係で、学校休業日の放デイ開所時間も午後からとなっている。そのため、お預かりも重視しているご家庭には利用しにくい事業所となっている。一方、児童発達支援は主に午前中に行っており、午後にご利用したいと思っているご家庭にとっては利用しにくい状況となっている。	個別的・主体的な療育を重視しすぎること、ご利用者様には使いにくい利用形態にはなっていると感じている。	児童発達支援のご利用者は少なくなってきたおり、児童発達支援の利用曜日を集約して、放デイ利用児童の利用時間の延長等を検討している。
2	スタッフによる能力や知識に差があり、保護者さんの相談等に乘れるスタッフが限られている。療法士、保育士、教員資格等の資格保持者は充実しているが、経験や知識を最大限生かされていない。	事業所内の共有や研修（OJT、Off-JT）がまだまだ不足していることや、スタッフ個人による学ぶ姿勢に差があることが要因として考えられる。	スタッフ自身の学ぶ姿勢を会社として適切に評価し、すべてのスタッフがご利用児・者さんに最善の療育や相談体制を提供できるような仕組みづくりの必要性和整備をおこなう。
3	イベント等の実施があまりない。児童発達支援は、1時間の療育と限られた時間で課題に取り組んでいるので創作等を通しての活動しかできない。平日に関して、放課後等デイサービスの児童さんは、学校があったりと宿題に取り組むことを重視してしまっているが、長期休みを活用して色々なイベントに参加できる機会を設けていきたい。	午前中を児童発達支援、午後は放課後等デイサービスを実施している多機能型の事業所であるが故、夏休み等の長期休暇中も一日お預かりできる体制にない。	外に遊びに行くというよりも、室内で短時間でもできるようなイベント等をスタッフ全体で考えて、児童たちの学びとなる機会を創出していく。